

政策形成実践特講Ⅱ(実施概要)

☆受講希望の学生は、担当教員（田中優）宛、メール<tanakam@n-fukushi.ac.jp>をお送りください。

<テーマ>：実際の地域課題に向き合うことで、それらの解決に必要な知識・視点・枠組みなどを学び、政策形成の応用を修得する。もって、将来の公共的分野のキャリアプランニングにも役立てる。

科目のねらい：

<キーワード>

政策形成

地域自治（ローカル・ガバナンス） 住民参加

住民・行政(公務員)の連携協働

<内容の要約>

本特講では、問題の気づきから政策の評価に至るまでの政策形成の知識・技法等につき、実際の地域問題をもとに、講義等を通じ獲得していくものとする。そして、それらのプロセスを通じ、将来、公共的な職業につく者の、キャリア形成にも役立てる。

<学習目標>

地域課題の様相や特徴を多面的な視点から捉えることができる。

グループで地域課題に取り組むことで、政策形成の知識・技法等を身に付け、他の問題に直面した時にも、自身で展開をすることができる。

地域住民や行政公務員などと共に、課題解決の姿を構想し、実践することができる。

自分自身の将来の公共的なキャリアプランを描くことができる。

<授業の流れ>

1. 5月：エントリーメンバーを交えてオリエンテーション顔合わせ（木曜日対面か、土曜日ズーム）
2. 6月：政策形成にかかる基礎知識講義①（オンデマンド方式、各自で）
3. 6月：同②（同上）
4. 7-9月夏季集中期間：問題の気づきワーク（対面）
5. 7-9月夏季集中期間：原因探究ワーク（同上）
6. 7-9月夏季集中期間：課題設定から解決法立案ワーク(同上)
7. 7-9月夏季集中期間：解決方法の絞り込みワーク（同上）
8. 7-9月夏季集中期間：全体を通しての政策形成振り返り(同上)
9. 10月：政策提案担当自治体からのレクチャー（ズームあるいは対面で木曜日）
- 10.10月：フィールド調査など（現地土日）
- 11.12.13.11-12月：グループ研究（ズームあるいは対面で木曜日）
14. 1月：中間報告（ズームあるいは対面で）

15. 2月：最終報告とふりかえり（ズームあるいは対面で）

*各回の詳細な日時については、初回5月のオリエンテーションにて、参加学生と決める。

（準備学習の内容・学ぶ上での注意）

①地域課題（テーマ）に取り組む先で得た情報や経験をもとに、グループで役割分担しながら、最終の政策提案へ向けてまとめていく。②見る・観る/具体・抽象/個別・総体の統合的な視点・姿勢を身につけ、地域を総合的・多面的に理解できるように努力していく。また、取り組むテーマの該当地域と自分の出身地域などと比較検討しながら考える、学ぶことも心がけていく。③地域住民や公務員の方々の視点・思い・望みを、先ずはきちんと大切に考え、捉え、受け止めていく意識・姿勢を学んでいく。④地域訪問における常識・マナーの遵守（服装、言葉使い、態度、行動等）には十分に配慮する。

*25名を大幅に超える際は、経済学部・社会福祉学部行政専修の学生を優先的に受け入れる。

*現時点でのテーマ検討地域は、岐阜県下呂市、愛知県武豊町などを想定しており、自己負担の交通費が発生することも留意されたい。

（事前・事後の学習）

事前：自分たちが政策形成する地域問題を取り巻く諸様相や関連する主体などを個人やグループで調べ理解し、質問・課題等を準備する。15時間

事後：事前学習や現場訪問などから理解した地域問題の構造を分析・整理し、解決へ向けた提案のポイントを明確にし、実践に移す。15時間

（本科目の関連科目）

フィールド実践演習、地方自治論、公共政策学、（社会福祉）専門演習Ⅰ・Ⅱ

（成績評価の方法）

期末試験（筆記・Web・レポート・最終授業内）0%

授業内でのレポート・課題等 50%

その他 50%

（本特講の評価ポイントは次の通りである。①グループワークやフィールドリサーチなどにおける参加・貢献の度合い（学びへの姿勢）。②振り返りレポート提出および最終の政策提案内容の理解・修得の度合い（学びの修得）。

テキスト

テキストを使用する

レジュメを使用する

未定（最初の授業で指示する）